第4講

表記・表現

チャプター1

原稿用紙の使い方

○ 原稿用紙の使い方NG例

小論文の書式には、原稿用紙のマス目が用いられることがあります。原稿用紙の使い方を誤ると、減点対象になったり、悪印象を与えたりする恐れがあります。小論文を書く前には、必ず原稿用紙の使用に関するルールを確認しましょう。些細なミスは、できる限り避けたいものです。

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター2

表現・表記上の注意

○ 表現・表記上の注意

　小論文を書く際には、表現や表記に気を付けなければなりません。表現・表記への気配りは、読み手の無用な混乱を防ぎます。また、あなたの意図を正しく伝えることにもつながります。一方で、表現や表記上の誤りは減点の対象となる恐れもあります。正しい表現・表記を心掛けましょう。

文章の長さ　○1

× 一般的な日本人像としては「集団主義的」「恥の文化」「道徳意識が高い」などがあるが、こうした見方で日本人という集団を捉えることは、日本人の国民性や日本文化の特性を理解し、行動原理を解明する足掛かりになる一方で、個人の特性を捉えるには不十分であるという指摘もあり、一般的な日本人像の多くは日本人の多様性を考慮したものではなく、必ずしもすべての個人に当てはまらない。

○ 一般的な日本人像としては「集団主義的」「恥の文化」「道徳意識が高い」などがある。こうした見方で日本人という集団を捉えることは、日本人の国民性や日本文化の特性を理解し、行動原理を解明する足掛かりになる。一方で、個人の特性を捉えるには不十分であるという指摘もある。一般的な日本人像の多くは日本人の多様性を考慮したものではなく、必ずしもすべての個人に当てはまらない。

呼応表現　○2

× 今まで経験してこなかった役割を担ってみたり、新しい経験や体験をしてみることが欠かせない。
○ 今まで経験してこなかった役割を担ってみたり、新しい経験や体験をしてみたりすることが欠かせない。

× なぜなら、すべて自分の思い通りにできるわけではなく、ときには自由なふるまいが他者の自由を妨げることもある。
○ なぜなら、すべて自分の思い通りにできるわけではなく、ときには自由なふるまいが他者の自由を妨げることもあるからだ。

誤りやすい漢字・送りがな・かな表記　○3

× 忙がしい → ○忙しい　× 短かい → ○短い　× 決っして → ○決して
× 価値感 → ○価値観　× 少しづつ → ○少しずつ　× コミニュケーション → ○コミュニケーション

句読点　○4

× 心の豊かさとは、個人が、精神的に、満たされていて、余裕が、あるさまを、指す。
○ 心の豊かさとは、個人が精神的に満たされていて余裕があるさまを指す。

文末表現　○5

× 自らの正義に対して常に疑念を持つとともに、他者が持つイデオロギーや正義を一度受けとめることが必要となります。ときには、集団内の利益をもたらすのであれば変更することも考えなければならないだろう。

× 自らの正義に対して常に疑念を持つとともに、他者が持つイデオロギーや正義を一度受けとめることが必要となります。ときには、集団内の利益をもたらすのであれば変更することも考えなければならないでしょう。

○ 自らの正義に対して常に疑念を持つとともに、他者が持つイデオロギーや正義を一度受けとめることが必要となる。ときには、集団内の利益をもたらすのであれば変更することも考えなければならないだろう。

会話調の表現・略語　○6

× そんな、こんな → ○そのような、このような　× 自分はこう思う → ○私はこう思う。
× 部活 → ○部活動　× 携帯 → ○携帯電話

表現技巧・無意味なカタカナ書き　○7

× 重要なのは、時代や社会に合った教養を身につける機会を積極的に生み出すこと。
○ 時代や社会に合った教養を身につける機会を積極的に生み出すことが重要だ。
× 大切なのではないか。人文・社会・自然の諸科学を分け隔てなく学び、それらを時代に合わせて活かしていくことが。
○ 人文・社会・自然の諸科学を分け隔てなく学び、それらを時代に合わせて活かしていくことが大切なのではないか。
× 「これからどう生きるべきか」を考えることがホントに大切である。
○ 「これからどう生きるべきか」を考えることが本当に大切である。

○1 文章は短く区切る
文章が長くなると、主語と述語、修飾語と被修飾語との関係が曖昧になり、ねじれ表現（「重要なことは、気持ちが無ければならない。」など、主語と述語がねじれている表現）を生む原因となります。

○2 呼応表現は正しく使用
たとえば「なぜなら」と書き始めたら、「～からだ。」などといった表現を用います。「～たり、～たり」は、特に誤りが多い呼応表現です。また、呼応関係は一文中でのみ働きますので、文をまたいで使用することはできません。

○3 漢字表記などの誤り
漢字、送りがな、かな表現の誤りに気を付けましょう。また、漢字のあるものは原則漢字表記です。思い出せない部分のみ平仮名を使用した、漢字かな交じりの表現も適切ではありません。外来語の表記ミスにも注意しましょう。

○4 句読点の注意
句点（。）は文の終わりに打ちます。読点（、）は適切に打ちますが、打ちすぎたり、少なすぎたりしないようにしましょう。

○5 文体を統一する
小論文では敬体（です・ます調）を用いず、常体（だ・である調）で文体を統一します。

○6 会話調の表現・略語は用いない
「なので」「でも」「ちゃんと」「…じゃない」「お父さん」「僕」などは、会話調の表現です。それぞれ「このため」「しかし」「きちんと」「…ではない」「父」「私」などと書き換えましょう。ら抜き言葉（「見れる」「食べれる」「来れる」）なども使用しません。

○7 意図を正確に伝える
体言止め、倒置法、省略などの表現技巧を用いると、解釈を読み手にゆだねることになります。書き手の意図を正確に伝えることを目的とする小論文での使用は避けましょう。また、無意味なカタカナ書きの使用も、同様の理由で控えましょう。

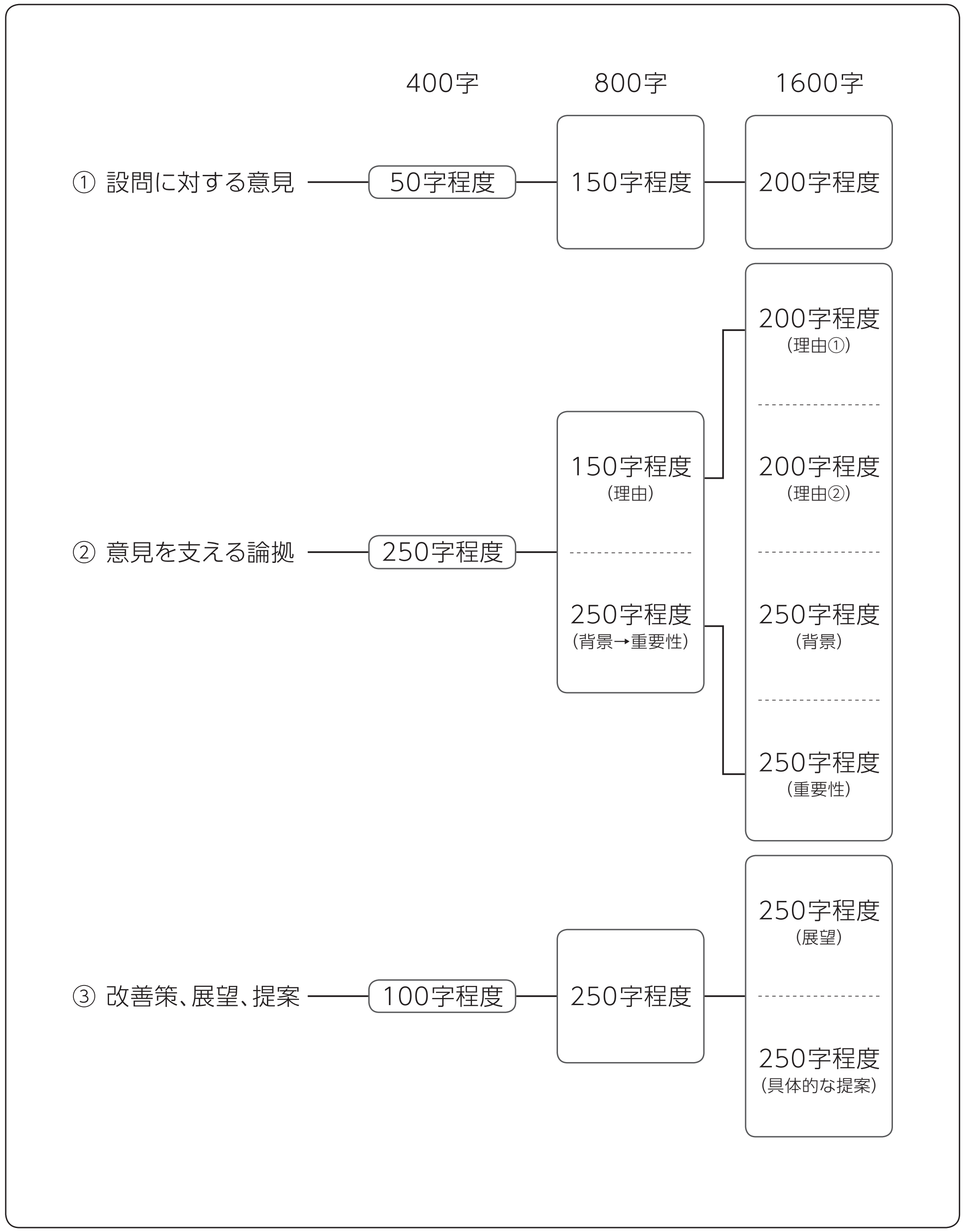
生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター3

段落の設定

○ 論述問題の場合



生徒メモ欄

教員記入欄

○ 字数の増やし方

●曖昧な表現、抽象的な表現を詳細に示す（解像度を上げる）

（修正前）　貧困問題は、資本主義が引き起こすものである。

↓

（修正後1）　貧困問題は、経済活動の自由を重視することによって引き起こされるものである。

（修正後2）　貧困問題は、経済活動の自由を重視することによって引き起こされるものである。これは何人もビジネスの契機を得られる一方で、成功することも失敗することも許されることでもあり、後者に貧困が訪れるということを意味する。

（修正後3）　貧困問題は、経済活動の自由を重視することによって引き起こされるものである。これは何人もビジネスの契機を得られる一方で、成功することも失敗することも許されることでもあり、後者に貧困が訪れるということを意味する。その背景には貯蓄と利子を認めていること、仮にそれらを認めた場合に再配分の機能が弱くなる経済の仕組みが存在することが考えられる。循環する経済の理想は貯蓄や利子をなくして売買することであるが、貯蓄や利子を認めると資本家は貯蓄をもとに利子や利ざやを得ようとし、さらに資本が蓄えられることになる。実質的にその行為は労働者からの搾取とみなされ、貧富の差が生じることになる。そして、蓄積した資本を税制によって再配分する仕組みがあれば循環するが、それが機能不全に陥る状況となれば、事態は深刻になる。

生徒メモ欄

教員記入欄

○ 字数の減らし方

●重複表現や修飾語句の削減、熟語の使用、遠回しの表現（無駄のない表現にする）

（修正前）　私たちにとってパフォーマンスが高いチームの特徴としてまず考えられるのは、誰かが指示されることがなかったとしてもメンバー一人一人が考えて動くことができることである。このようなチームをつくるにはどのような心構えが大事になるのだろうか。

↓

（修正後1）　パフォーマンスが高いチームの特徴の一つは、指示なくメンバー一人一人が考えて動くことである。このようなチームづくりに必要な心構えは何か。

（修正後2）　パフォーマンスが高いチームの特徴の一つは、自律性である。このようなチームづくりに必要な心構えは何か。

（修正後3）　パフォーマンスが高いチームの特徴である「高い自律性」の養成に必要な心構えは何か。

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター4

引用の方法

書き込んでみよう

○ 引用の意味

他者の主張や研究成果（功績）に［　　　］を払うため、引用のルールを守る。
他者の主張や研究成果（功績）を盗んで自分のものにする行為を［　　　］という。
［　　　］は絶対にしないこと。
書き手がどこに書かれている主張や研究成果をもとに論じているのかを確かめることができるように、［　　　］を明記する。
引用するときは［　　　］［　　　］［　　　］［　　　］を用いたのかを、読み手にわかるように書く。

○ 直接引用

引用元の文章を［　　　　　］用いる方法。

1. 短い直接引用
   「　」を使い、［　　　］の中に引用部分を直接入れる。
   引用部分の［　　　］に出典を明示する。
   〈表現例〉
   ・「引用部分」（著者，出版年，該当ページ）と定義される。
   ・著者（出版年）は，「引用部分」（該当ページ）と定義している。

2. 長い直接引用
   引用部分の［　　　］を一行ずつ空ける。
   引用部分を2文字程度［　　　］する。
   引用部分の［　　　］に出典を明示する。
   〈表現例〉
   本文……………**引用部分〜〜〜〜（著者，出版年，該当ページ）**本文……………。

○ 間接引用

引用元の文章を［　　　　］する方法。

1. 自分の文章と間接引用部分が［　　　］できるように、
   引用部分の前後の［　　　　］を工夫する。
2. 引用部分の［　　　］に出典を明示する。
3. 著者の［　　　］を変えない。
   〈表現例〉
   ・著者（出版年）によれば，…という。
   ・………という先行研究がある（著者，出版年）。

○ 文献表

利用した［　　　　］をリストにしたもの。

1. 書籍の表現例
   ・著者（出版年）『著書名』，出版社
2. 論文の表現例
   ・著者（出版年）「論文タイトル」，編者『論文が収録されている書籍名』，出版社，該当ページ
   ・著者（出版年）「論文タイトル」，『論文が収録されている書籍名』，巻号数，該当ページ
3. ウェブサイトの表現例
   ・著者「ページのタイトル」ページのURL（ページ閲覧日）

生徒メモ欄

教員記入欄

おわりに

この講座では、大学を研究機関と捉え、事前課題小論文やレポートを作成してきました。これらを形にする過程で、志望する学部・学科にかかわる学びを得てきたのではないでしょうか。そして、専門領域の中で起こる問題や課題が見えたり、その学問の面白さに気づいたりしたのではないでしょうか。また、課題に取り組む過程で、アカデミックスキル（学問をするための技術）も学べたのではないでしょうか。

課題図書や論文を読み、理解し、あなたの意見をどう構築するのか、という営みは、大学では当たり前のように行うことです。ただ、実際にやってみると、それほど大変なことではないと感じたかもしれません。文献に示される一つ一つの事柄が新鮮で、いままで学んだことがないことに触れるたびに、知的好奇心がかき立てられることも多かったのではないでしょうか。

私はそもそも総合型選抜・学校推薦型選抜で合格者を輩出する表面的なテクニックを教えても、それは対症療法でしかないし、そこには私が存在する意味は見出せません。大学という機関が持つ本質は「研究」です。そこを真正面から捉え、「あなたはどういう世界を作りたいのか（未来創造）」とどう接続するのかを徹底的に考え抜くことが、大学に入学する者であれば最も大事なことです。大学、そしてこれまで先人たちが培ってきた学問を尊重し、さらに歩みを進めることが大事だと思っています。

そのように捉えると、この講座を受講する前のあなたと、今のあなたははるかに変わったはずです。取り組む前は、文章を読むのが苦手だったり、文献を探すのに時間がかかったり、慣れない学術用語に苦戦したりしたかもしれません。しかし、少し大変だったかもしれないけれど学問に向き合おうというマインドもスキルも備わったことでしょう。学問への入り口に立つことができた喜びを味わえるのは、事前課題小論文の醍醐味なのではないかと思います。

この経験はきっと大学での学問探究を支えることになりますし、もちろん総合型選抜・学校推薦型選抜でもあなたにとって大きな自信になるはずです。最後まで取り組んでくれたあなたは、あなたが持つ才能をもとに、きっと世界をつくる人になってくれると信じています。

この講座で養った実力をもとに、全力で事前課題小論文の答案作成に挑んでください。きっとあなたにとって素敵な学びとなることでしょう。私も、これからもあなたを応援します。これからもぜひ頑張ってください！

神崎 史彦

小論文　ルーブリック

ルーブリックとは、学習の達成度の評価指標を表で示したものです。縦軸は評価の観点、横軸は学習者の到達度を示します。なお、それぞれの評価基準を文章で表現していますが、抽象的に示していますので、評価基準の文章と自分の面接回答案や実際の面接練習の様子と照らし合わせ、まずは自分なりに「このあたりはできている（できていない）」という評価をしてみてください。そして、次のレベルに到達するにはどのようなことをする必要があるのかを考え修正してください。目安として、すべての項目がB評価以上になるように頑張ってみてください。

●内容

項目		評価ポイント	S	A	B	C	F
設問の理解	出題の意図および背景の理解	設問内容の理解 ※ 課題文・データ等の読解を含む	設問の内容を十分に理解して論じている。	設問の内容をおおよそ理解して論じている。	設問の内容に関する理解が不十分なまま論じている。	設問の内容を理解しているとは言いがたい論述である。	設問を理解しているかどうかが判定できない。
意見（主張）	設問と意見との関係	① 設問との形式的な呼応 ② 設問との内容的な呼応	設問に呼応する意見を示している。	設問に呼応する意見を示しているように見えるが、実のところ正しく答えられていない。	設問に関係するテーマで論じているが、設問に呼応していない。	設問に呼応する意見を示しておらず、設問に関係するテーマでも論じていない。	設問に対する意見を示しているかどうか、判定できない。
	独自性・独創性・発展性	① 自分なりに意見を構築する姿勢 ② 意見の視点・手段の独創性 ③ 意見の視点・手段の発展性	意見に独創性があり、かつ提示している改善策や展望に発展性および具体性がある。	意見に独創性がある。	自分なりの考察をもとに、意見を示している。	意見を提示しているものの、一般論の受け売り、もしくは類似したものであり、自分で考察したものとは言いがたい。	意見が不明確であり、自分で考察しているかどうかが判定できない。
理由（根拠）	事実をもとにした論証	① 事実をもとにした論証 ② 主観を排除した事実の取り扱い ③ 総括的な事実認識による論証（断片的な事実認識の否定） ④ 深層的な事実認識による論証（表層的な事実認識の否定）	社会的もしくは心理的背景を踏まえ、正しい事実認識をもとに、総括的・深層的な視点で論証を行っている。	社会的もしくは心理的背景を踏まえ、正しい事実認識をもとに論証を行っている。	できる限り主観を排除して事実を取り扱い、正しい事実認識をもとに論証を行っている。	特殊事例や都合のよい事実をもとに論証しようとしている。もしくは断片的な情報での論証にとどまっている。	事実をもとに論証しているかどうか、判定できない。
	重要性・問題性	① 設問やテーマに潜む問題・課題の適切な理解 ② ①の重要性・深刻性の理解と指摘 ③ 第三者や他分野への影響を鑑みたうえでの優先順位付けの有無	設問やテーマに潜む問題・課題を十分に理解し、それが様々な分野における影響を鑑みたうえで、他の意見と比べて重要・深刻であるという認識をしている。その上で、意見を主張する重要性もしくは問題性を理由説明している。	設問やテーマに潜む問題・課題を理解し、第三者にとって重要・深刻であるという認識のもと、意見を主張する重要性もしくは問題性を理由説明している。	意見を主張する重要性もしくは問題性を理由説明しているが、その重要性・深刻性を理解して述べているとは言い難い。	理由説明をしているものの、自らの意見の重要性・問題性を論じているとは言い難い。	意見の重要性・問題性を論じているかどうか、判定できない。
論理性・簡潔性	適切な論理展開	① 論旨の逸れのなさ ② 論理の飛躍のなさ ③ 反論の余地のなさ	論旨が逸れたり、論理が飛躍したりすることなく文章を展開している。かつ、反論の余地がない。	論旨が逸れたり、論理が飛躍したりすることがほぼなく文章を展開している。かつ、反論の余地を極力回避している。	論旨が逸れている部分はないが、論理の飛躍があり、理由（根拠）が成立しない。	論旨が大きく逸れており、理由（根拠）が成立しない。	論理展開が判定できない。
	簡潔な記述	① 論旨に関係ない記述のなさ ② 冗長な記述の排除	論旨に関係ない記述がなく、言葉を吟味して、無駄なく文章を展開している。	論旨に関係ない記述がほぼなく、論理性に支障がないが、言葉の精選がなされていなかったり、内容が重複して無駄な記述が多かったりする。	論旨に関係ない記述があるものの、論理性にはほぼ支障がない。	論旨に関係ない記述があるために、論理性に支障をきたしている。	論旨に関係ない記述しかない。もしくは判定できない。

小論文　ルーブリック

●表記･表現

項目		評価ポイント	S	A	B	C	F
表記･表現	誤字･脱字	① 誤字･脱字の有無 ② 漢字かな交じりの表現の有無	誤字・脱字がなく、漢字かな交じりの表現もない。	―	―	誤字・脱字および漢字かな交じりの表現が1つおよび2つある。	誤字・脱字および漢字かな交じりの表現が3つ以上ある。
	段落の設定	意味性のある段落構成	意味性を持って段落を区切っている。	―	―	意味性を持たずに段落を区切っている箇所がある。	段落を区切っていない、もしくは段落を区切りすぎている。
	制限字数	制限字数の厳守	制限字数の9割以上、かつ制限字数をオーバーしていない。	―	―	制限字数の8割～9割未満である。	制限字数の8割未満、もしくは制限字数をオーバーしている。
	文体の統一	常体の統一	文体を「だ・である」に統一している。	―	―	―	文体を「だ・である」に統一していない。
	表現技法	① 呼応表現 ② 句読点 ③ 文のねじれ ④ 主語･目的語･述語の明示 ⑤ 省略語･若者言葉	明らかな表現上の不備がない。（呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の不使用）	―	―	明らかな表現上の不備が1つおよび2つある。（呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の不使用）	明らかな表現上の不備が3つ以上ある。（呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の不使用）